

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.4〉

〈見初③ 小学校歌〉

宇部市が石炭産業の町として発展しつづつある1930年、見初小の前身である見初尋常小学校が開校した。同校は45年7月2日の宇部大空襲により灰塵（かいじん）に帰し、その後やむなく廃校に。見初地区の児童たちは、神原小と岬小への分離就学を余儀なくされた。それから間もなく終戦を迎え、5年後の50年4月に見初小として再建。その復活と時を同じくしてできたのが現在の校歌だ。

戦後の学校再建に合わせて制定

校歌

一 晴れたみそらに霜降り山の姿をあおいでは高い望みに手をとって明るい鐘を聞くところ我らの見初小学校

二 文化の花咲くこの庭に清い心の育つときあすの日本がきざかれる楽しい友のこの集い我らの見初小学校

三 あしたゆうべも絶え間なく瀬戸の浜辺の波ひびき常に励めと教えられ正しく強く伸びていく我らの見初小学校

一つの歌詞に二つのメロデー



校歌の発表学会が開かれた「見初座」（住民提供）

当時の住民は、わが地区の学校の復活を喜び、新たな校歌の制定に取り掛かる。早速、復校祝賀会の席上で歌詞の募集が発表され、市内外から十数編の作品が寄せられた。同年12月には、神原中の岩松文弥校長が委員長を務める審査委員会で審査があり、応募作品に委員長が補詞する形で歌詞を制定した。作曲は、その道の大家であった原田彦四郎。翌年2月3日に発表学会があり、正式に校歌の完成となった。

当時の住民は、わが地区の学校の復活を喜び、新たな校歌の制定に取り掛かる。早速、復校祝賀会の席上で歌詞の募集が発表され、市内外から十数編の作品が寄せられた。同年12月には、神原中の岩松文弥校長が委員長を務める審査委員会で審査があり、応募作品に委員長が補詞する形で歌詞を制定した。作曲は、その道の大家であった原田彦四郎。翌年2月3日に発表学会があり、正式に校歌の完成となった。

校歌には、バレエ指導者の石井好美さんが振り付けをした「校歌ダンス」があり、現在も運動会などのイベントで踊り継がれている。当時3年生だった地元的女性（80）は「みんなで行列を組んで見初座に練習に行っていた。舞台には上がれなかった子どもたちも、一生懸命に歌と踊りを練習した」と振り返る。歌詞には、かつて昭和